

令和8年度

横手支援学校

授業づくりの基礎・基本

【横手のスタンダード】

児童生徒と教師が共に成長するために…



秋田県立横手支援学校

横手のスタンダード

☆この冊子には、①横手支援学校として、授業づくりにおいて大事にしたい点
②チームによる授業づくりを進めるヒント が書かれています。

◆単元スパンで「練り合う」→「授業する」→「振り返る」ことを基本とし、
チームによる授業づくりを大切にしましょう。

1. 授業設計（練り合う）

【授業設計の土台】 ●学校教育目標・学部目標

●個別の教育支援計画・指導計画

- (1) 授業の基本を構想する（ベースミーティング）
- (2) 単元を構想する（他学習との関連や地域資源の活用）
- (3) 具体的な支援方針を考える
- (4) 授業構想を具体化する（学習指導案の作成）

【授業設計の主な流れ】 児童生徒の将来の姿を考え、以下の視点を大切にします。

- ① 児童生徒の育てたい力を明確にする。
- ② 育てたい力を引き出すための指導内容を検討する。
- ③ 児童生徒の確かな学びや成長に向け、単元の展開（構成、時数等）を考える。

2. 授業実践（授業する）

- (1) 基本姿勢を踏まえる
 - ・健康・安全への配慮・信頼関係
 - ・落ち着いた雰囲気、反応の受容
- (2) 学習活動を工夫する
 - ・意欲喚起 ・活動量の確保
 - ・学びの実感（承認機会、考える機会）
- (3) 学習環境を整える
 - ・「構造化」の整理
- (4) TT（チームティーチング）を機能させる
 - ・役割分担の明確化と意図

3. 授業評価（振り返る）

- (1) 授業実践を振り返る
 - ・児童生徒の変容（表情・行動・言葉等）の分析
 - ・基本姿勢の確認
 - ・学習活動、学習環境の評価
 - ・TTの振り返り
- (2) 授業設計を振り返る
 - ・手立て、指導内容の評価
 - ・単元（本時）目標の達成度
 - ・育てたい力の評価と修正

チームでの振り返り → 授業改善へ

「練り合う」のスタンダード

ー ベースミーティングをしよう（授業者以外の教師も交えると効果的！）ー

（1）授業の基本を構想する

- ① 児童生徒の実態把握をする。
（「過去」→「現在」→「将来」の時間軸を意識して把握する）。
 - ・興味・関心、認知特性、対人関係スキル、社会性スキル、学習経験、既習事項等
 - ・本人や保護者の希望、家庭や地域での生活の様子等
 - ・今できていることや想定される将来の生活、社会的自立に向けて身に付けておきたい力
〔個別の教育支援計画、個別の指導計画〕
- ② 学校教育目標や学部経営の努力事項、学習指導要領（各教科等における指導内容）を確認する。

◆学校教育目標◆

一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加を目指して、たくましく生きる児童生徒を育成する

☆めざす児童生徒像☆

明るく 健康で 心豊かな明るい児童生徒
仲良く 協調性に富み 社会性豊かな児童生徒
元氣よく 自ら意欲をもって役割を果たす児童生徒

- ③ 横手支援学校キャリア教育全体計画と、その指導の重点を確認する。
- ④ ①、②、③をすりあわせ、単元や授業で育みたい力、目指したい児童生徒の姿を明確にする。

「できる」「できない」という視点よりも「育てる」という視点を大切に！

（2）単元を構想する

- ① 目指したい児童生徒の姿を引き出す指導内容（中心課題）を検討する。
- ② 児童生徒にとって分かりやすい流れを組む（指導内容を組織化）。
 - ・単元のクライマックス※1を検討する。
 - ・単元の時数を検討する。
- ③ 他の単元や指導の形態との関連も検討する（年間指導計画）。
- ④ 生活に結び付いたより具体的・実地的な学習活動を検討する（地域資源の活用）。

※1 児童生徒が単元のゴールとしてイメージし、最も盛り上がる学習内容を含んだもの。

児童生徒にとって、本単元の学習の意味や価値が感じられるように…

「授業者以外の意見を聞きながら柔軟に単元計画を修正してみよう！」

単元計画の修正ポイント 例) ・見通しがもてる繰り返しのある単元構成
・ICTの活用を踏まえた単元計画
・言語活動の充実を目指した学習内容や支援の工夫 等

－ 授業プランをたてよう－

(3) 具体的な指導内容・支援方法を考える。〔ベースミーティングを踏まえて〕

- ① 児童生徒の思いや願い、興味・関心に基づいた単元となっている。
 - ② 単元をとおして育てたい力が明確になっている。
 - ・簡潔に本単元のねらいが話せる。
- ▶ **指導の形態**の、**単元**において、**学習活動**をとおして、**～の力や児童生徒の姿**を育てる。また、～の力は、**将来の○○**につながる等。
- ③ 学校教育目標、学部経営の努力事項、学習指導要領の内容を具現化したものとなっている。
 - ④ ライフキャリアの視点「役割を果たす」「自分らしく生きる」「自己実現を果たす」を意識したものとなっている。

授業の中で大切にしたいポイント

★学習の意味付け、価値付け、関連付け【ライフキャリアの視点：役割を果たす】

- ・児童生徒が学習の必要性を感じられる工夫がある。
- ・児童生徒が学習のゴールや学習と将来との結び付きを意識できる工夫がある。
- ・児童生徒が学習中に学習のめあてを意識できる工夫がある。
- ・少し難しく、挑戦したいと思える課題が設定されている。
- ・学習のめあてとまとめのつながりが見える工夫がある。

★承認機会【ライフキャリアの視点：自分らしく生きる】

- ・児童生徒が自分や周りを認める及び認められる機会が設定されている。

★考える機会【ライフキャリアの視点：自己実現を果たす】

- ・学習のめあてやまとめ、学習活動中に、児童生徒の考える機会が保障されている。
- ・児童生徒が考えたことを表出する機会が保障されている。

(4) 学習指導案を作る。

学習指導案・略案を作成する。

- ・育てたい力
- ・単元（本時）の目標
- ・指導内容
- ・手立て 等 を簡潔に記す。

研究部から出される
「学習指導案正案・略案」
の書き方を参照

2 「授業する」のスタンダード

— 授業の前に ～日々の教育活動から行っておきたいこと！ —

学習のルールづくり

学びの構えづくり

- ・学習グループのみんなが気持ちよく**学習するためのルール**などは、全員（個別）で確認する機会を設けたり、視覚的に提示したりする。また、発達年齢に応じて児童生徒が話し合いの中で決めるなど、日々の教育活動の中で適宜行う。
- ・**人の話に注意を向ける（注意を継続する）**ことは、豊かな学びを支える一つの要素であり、社会的自立に向け大事な力といえます。学びの構えづくりとして、児童生徒が「学習が始まる」ことや「誰かが話をする」ことが分かり、自分の気持ちを調整していくための工夫を普段から行うことが大切です。
※発達の段階に応じてですが、まずは「何か楽しそうなことが始まるぞ（ワクワク）」という期待感から始められるといいですね。

— 授業実践 —

(1) 基本姿勢を踏まえる。

- ① 健康・体調、安全や衛生面への配慮
- ② 明るく、落ち着いた雰囲気づくり
- ③ 児童生徒の反応や発信への気付きと受け止め
- ④ 子どもの気持ちや思考への寄り添い
- ⑤ 場に適した言葉遣いや態度

承認の機会につながります

児童生徒との関わり方の基本

児童生徒に伝わりやすい話し方

- ・目線を合わせて話す
- ・明るい表情、元気な声で話す
- ・一文で1つの指示を話す
- ・具体物を示しながら話す
（「あれ」「それ」「あちら」×）
- ・一問一答にならないように話す
- ・児童生徒の理解の程度を確認しながら話す
- ・ユーモアも入れて話す
- ・意図や内容を明確にして話す

児童生徒に寄り添った話の聴き方

- ・表情をよく見て聴く
- ・受容的な雰囲気聴く
- ・話を最後まで聴く
- ・児童生徒の意見をつなぎながら聴く
- ・児童生徒の理解の程度を確かめながら聴く
- ・児童生徒の話を楽しみながら聴く
- ・あいづちをうちながら聴く

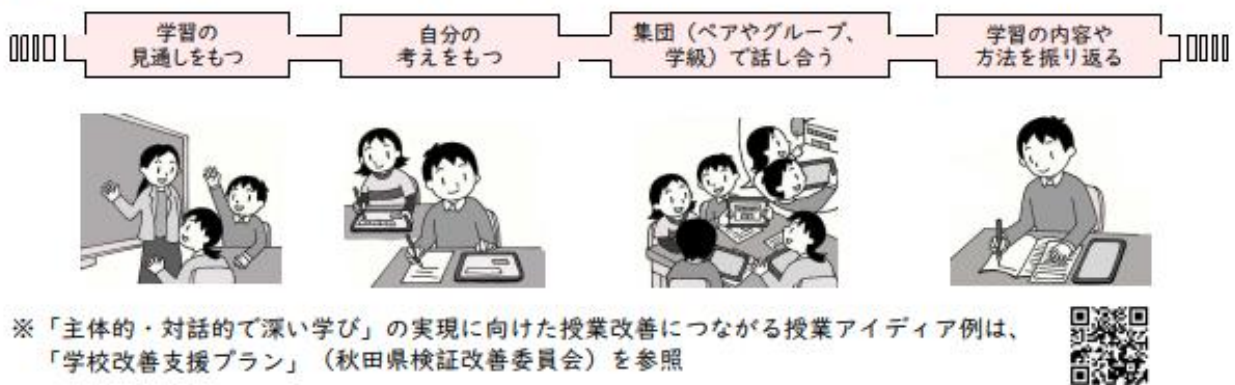
※P6(4) 言語環境を整える

(2) 学習活動を工夫する。

- ① 導入：本時の意欲喚起、学習への見通し
- ② 展開：活動量の確保、めあてを達成するための活動
- ③ 終末：学びの実感（達成感）、次の学習への意欲喚起

【児童生徒の学び合いを高め合うためのポイント】

【「秋田の探究型授業」の基本プロセス】

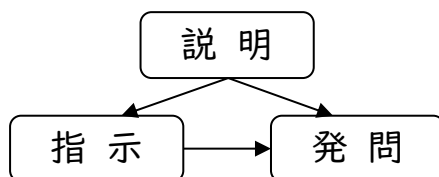


「個の学び」で終わらずに、「個の学び」を「集団の学び」につなげたり、共有したりできる工夫をする。

R8 学校教育の指針より

★考える機会の保障★

教師の言語的関わり（「説明」「指示」「発問」）を意図的に使い、児童生徒の考える機会を保障する。



- ・授業の中で、説明から指示・発問、説明から指示、そして発問など、意図的に用いる。

★承認機会の保障★

教師の言語掛けや雰囲気づくり、活動内容により、自分や友達を認める機会や自分が認められている実感を味わう機会を保障する。

役割を果たすことで認められる

人として認められる

- ・人として認められることを土台としながら、自分が周りに働き掛ける（役割を果たす）ことで、周りに影響を与えたり、喜ばれたりすることを実感できる機会を意図的に設定する。

(3) 学習環境を整える（構造化）。

例

① 「空間」の構造化

- ・ 児童生徒と教師の動線
- ・ 座席や道具の配置
- ・ 感覚刺激に配慮した掲示物



「歩く場所」が分かる



順番が分かる

② 「時間」の構造化

- ・ 「始め」と「終わり」の時間
- ・ 活動の順番



活動の手順が分かる



終了時間が分かる

③ 「活動」の構造化

- ・ 単元全体の計画
- ・ 学習の流れ「何を」「どの順番」「どれだけ？」

④ 「方法」の構造化

- ・ 活動の手順（マニュアル）
- ・ 完成品の提示



単元の流れ（学習の軌跡）が分かる

(4) 言語環境を整える。

① 「話す」

- ・ 児童生徒の生活年齢に即した話し方をする。
- ・ 児童生徒が分かる言葉を用いる。
- ・ 適切な言葉で簡潔に話す。



② 「聞く」

- ・ 机の位置や向き、発表者を見る姿勢など注目できる配置やルールを工夫する。

③ 「読む」「書く」

- ・ 掲示物や配布物の文字や用語は適正に使用する。

④ 児童生徒、教師との関わり

- ・ 自分の気持ちや考えを表現しやすくなるよう、安心できる人間関係や雰囲気作りをする。
- ・ 児童生徒同士が適切な話し言葉で関わられるよう、教師がモデルを示す。

(5) TTを機能させる。

- ① 適正数及び役割分担が明確
- ② 意図のある立ち位置



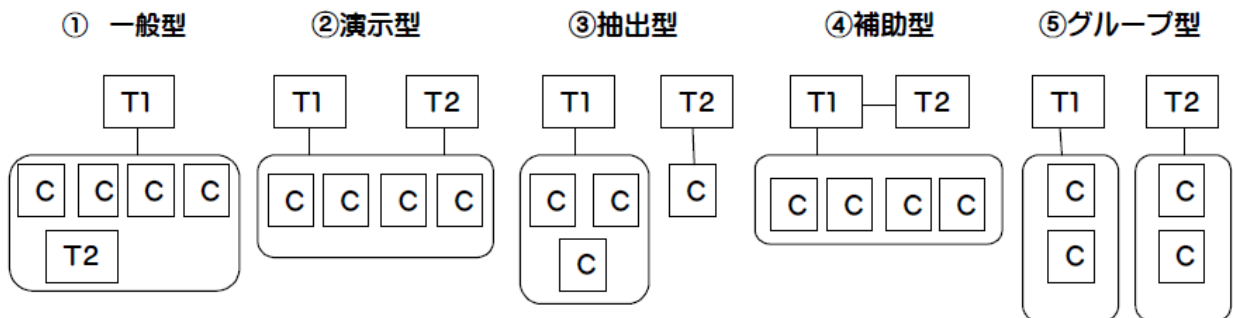
座席配置の工夫（コの字型）と
教師の立ち位置

TTで協力して子どもたちの
学びや変容を見取ろう！！

チームティーチング（TT）では、複数の教員が役割を分担し、協力しながら指導にあたります。単に同じ場所に複数の教員が配置されているというわけではありません。特別支援学校では、ほとんどの授業がTT方式による指導ですので、授業を行う際には、どの形式で、誰が、どのような働き掛けをするのかなど役割分担をしっかりと確認しておきましょう。

◇TT方式の形式パターン例

T:教師 C:児童生徒



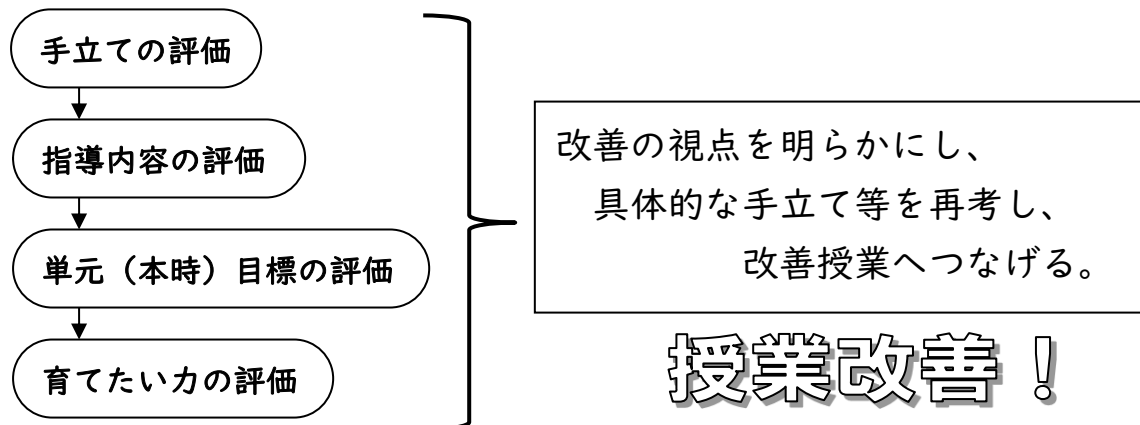
3 「振り返る」のスタンダード

(1) 授業実践を振り返る。

- ① 児童生徒の変容や学びの姿を振り返る。
 - ・児童生徒一人一人の引き出した姿が見られたか。学習中の表情や行動、言葉など授業中に見られた様子を出し合う。
 - ※意見を出し合う際には、付箋紙やホワイトボード、タブレット型端末、モニター等を使い可視化する。
 - ・本時や単元の目標が達成されたかどうかを述べ合う。
- ② 基本姿勢、学習活動、学習環境、TTについて振り返る。
 - ・特別支援教育のミニマムスタンダードのB授業実践チェックリストを活用する。

(2) 授業設計を振り返る。

- ・児童生徒の変容や学びを引き出すことができたかどうかとともに、以下の点についても評価し、課題があれば修正する。



- ・全校授業研究会では、学部縦割りのグループで「ワークショップ型協議」をとおして改善の視点を明らかにする。
- ・学部授業研究会では、参観者による授業参観シートと指導助言を基にして改善の視点を明らかにする。
 - 授業者はそれを基に手立て等を再考する。
- ・単元終了後に年間指導計画等へ立ち返り、次単元での授業づくりに生かす。
 - 「練り合う」へ

〈参考文献等〉

- ・秋田県立横手養護学校：「研究紀要第33集」
- ・特別支援教育課 総合教育センター：「特別支援教育のミニマムスタンダード」
- ・武田篤：「特別支援学校における授業づくりの新しい視点」～仲間と共につくる授業～
- ・千川隆：「特別支援教育のチームアプローチ ポラリスをさがせ」
- ・平成24年度 全校授業研究会等の指導助言、記録から
- ・令和5～6年度 授業づくりプロジェクトより
- ・令和7年度 学校教育の指針